

## 楓くんを見守る「ひかり石」

3年 Y・Kくん

「ひかり石って何だろうっ、ふじぎだな。」「化石かな？ 宇宙から来たのかな？ 生き物かな？」とはじめは思いました。本を読んでもみると、石はまるで心があるように自分の力で進んだり、光ったり、しゃべり始めたりして驚きました。石が何なのかわかりませんが、この本を読み終えて、何を意味しているのかわかりました。

楓くんは「石みたいな子」で心の中にうかんだ言葉が出てきません。それは、小さいころにお母さんが遠くに行ってしまったと言われ、いつか帰ってくると信じていたのに、友だちから「お前のお母さんは死んだんだよ」と言われてショックを受けたからだと思いました。お母さんが死んだことがショックで声が出なくなつた楓くんの悲しい気持ちに共感しました。ようち園の時から小学生の今になるまで、ずっと話ができないなんて。本当にショックでつらかつたんだなと思いました。

石が暗やみの中だけ光る、楓くんにだけとどくということは、亡くなったお母さんのたましいなのかなと思いました。そして、石が「いつもそばにいるよ」と言った時やお父さんが化石の森の話をしている時、石が「なつかしいね、化石の森」と言ったので、きつと石はお母さんだとかく信じました。

「楓くんの心の中の石が光った。美しく強い光だった」とあって楓くんが元気でおしゃべりな男の子になり友だちもできました。楓くんの心が回復したのだと思つてほつとしました。このお話は、「楓くんの心の回復」がテーマのお話だと思えます。楓くんの心が回復したのは、お母さんのたましいがいつもそばで見守つてくれているのを楓くんが感じられるようになったからだと思います。楓くんはすっかり元気になり、もうさみしくありません。すべての生命は石から生まれて石にかえていく。お母さんも石になって楓くんのところへ来てくれたのかもしれません。お母さんの声は、天国から石を通して聞こえてきたのだと思います。お母さんがいつも見守ってくれ、この家族が幸せになって良かったと思えました。